

厚木愛甲環境施設組合事業懇話会先進施設視察

平成 22 年度第 2 回懇話会は、可燃ごみをエネルギーや資源としてリサイクルする施設として、流動床式ガス化溶融方式によりごみ処理を行っており、平成 22 年 3 月に供用開始した、埼玉県の「川越市資源化センター」の視察を行いました。

当日は、概要説明の後、現地見学をしながら活発な質疑応答がされました。

- 1 実施日 平成 22 年 11 月 10 日（水）
- 2 参加者 懇話会委員 9 人

川越市資源化センター施設概要

施設名称	川越市資源化センター 熱回収施設
所在地	川越市大字鯨井 782 番地 3
竣工	265t/日 (132.5t/日×2 炉)
建築面積	約 8,600 m ²
延床面積	約 15,200 m ²
炉形式	流動床ガス化溶融炉
建物構造	鉄骨造・鉄筋コンクリート造・ 鉄骨鉄筋コンクリート造（地上 5 階、煙突高さ 90m）
市の人口	342,318 人
市の面積	109.16 k m ²



【主な質疑応答】

Q 1 . 祝日に個人が搬入した場合の対応は。

A 1 . 今までは、一般家庭の自己搬入はごみ量や件数の予測が付かないということで、受け付けていなかったが、22年10月からは受付を始めました。理由としては近隣市町村が既に受け入れを行っていたからです。また、持参するごみとしては、集積所に出せない粗大ごみが多い。ただし50kg以上あれば、料金をいただいております。

Q 2 . 事業所からの受け入れているのですか。

A 2 . 10kg /170円で受け入れております。

Q 3 . 最終処分場はないのですか。

A 3 . あるのですが、埋立容量が85%に達している状況です。

Q 4 . 地元住民に対する支援施策として余熱利用施設の建設ということですが、具体的にはどういう施設か。また、施設を利用するのに有料か。

A 4 . 温水利用型健康増進施設で風呂と温水プールとフィットネス施設です。基本的には運営自体はPFI方式にするため、有料にはなると思うが、地元対応ということで還元することは考えています。

Q 5 . 溶融飛灰について

A 5 . 山元還元ということで回収できる金属などが入っていますので、有価物は回収して最終的にはスラッグという形で有効利用しています。

Q 6 . ごみの出し方でルール違反があった場合は。アルミ缶などをホームレスが持っていってしまうことはあるか。

A 6 . 明らかなルール違反があった場合は、シールを貼っている。1週間そのままにしておいて、自治会から要請があれば回収しに行く。ホームレスの話は一時期ありましたが、最近はない。

Q 7 . パッカー車が積載オーバーしている場合の防止策は。

A 7 . 定期的にチェックをしています。明らかに積載オーバーしている場合は業者を呼び出して厳重に注意をしている。

Q 8 . 布類の回収は

A 8 . 今のところ行政回収が年2回、49会場でそれ以外については、月1回行われている集団回収で対応している。